

# 【今年の運氣】

令和8年『丙 午(ひのえ・うま) 一白水星(いっぱく・すいせい)』

(令和8年2月4日～令和9年2月3日の運氣)

## 『九星気学』とは

森羅万象(しんらばんしょう・この世のあらゆる現象)の営みは「陰陽と五行(木・火・土・金・水)」の作用によって構成されていることを究明し、それによって生じる現象を統計学的にまとめ上げた学問。「占い」とは一線を画します。その起源は5000年遡(さかのぼ)ります。

紀元前3000年頃、「自然万物は『陰陽』により成る」という哲学が、中国初の世襲王朝「夏(か)」で生まれ、『九星気学』の基礎が誕生しました。紀元前2100年頃になるとさらに発展し、多くの統計的知見を積み重ねて九星気学の理論が確立しました。その後、各王朝では「国を治める」手法として気学を用い、三国志の諸葛孔明(しよかつ こうめい)などの軍師(ぐんし)は、いずれもが『気学』に精通し、軍事または統治の手段として活用しました。

わが国には飛鳥時代、遣隋使(けんずいし)・小野妹子(おのの いもこ)が伝え、暦(よみ)を初めて用いたのは推古(すいこ)天皇です。聖徳太子も「気学陰陽」の理を大いに活用しました。室町時代、吉田兼俱(よしだかねとも)が神道の指導原理として『気学』を採り入れ、現在でも多くの神社では『九星気学』を重用(ちようよう)しています。戦国時代になると徳川家康は、天台宗の僧・天海(てんかい)上人(のちの慈眼大師)を通じて『九星気学』と出会い、自らの運勢のみならず政治・軍事に活用し、天下取り、幕府運営、江戸の町づくり(都市計画)に用いました。しかし極めて的中することから民間に広まることを恐れ、幕府内に留めて門外不出としました。明治になるとその禁が解かれ、世に広く知れ渡ることになりました。

立正佼成会の庭野日敬開祖は、法華経に結縁する以前にこの『九星気学』に出会い、研鑽を重ね、衆生救済の方途(ほうと)として『九星気学』を極めました。現在、立正佼成会ではこの『九星気学』を「時代予見」「動静掌握(どうせい しょうあく)」「精進目標の設定」の補助的手段として用いており、菩薩行促進の一助として活用しています。

## じっかん じゅうにし きゅうせい 十干・十二支・九星の意味 — ひのえ うま いっぱくすいせい 「丙・午・一白水星」

「十干・十二支・九星」は、それぞれが『天の気』、『地の気』、『人の気』を表わします。

十干(じっかん)は『天の気』であり、『天の作用』を示します。『天の気・天の作用』とは「天が大地(地球)に及ぼす作用」で、主として形而上(けいじじょう・形を超越したもの、形に現れないもの)となって現れる現象を表します。つまり、「理性・精神」を示します。天から示された「理性・精神」は大地に住む「人々の心」となり、民衆の「世論」に反映されます。十干が示す現象は「気候・政治・思想・哲学・世論・風潮」等となって具体的に現れるとされます。

**十二支**は『地の気』であり、『地の作用』を表します。これは「天の作用を受けた大地が反応して、『地のはたらき』となって現れるもの」で、主として形而下(けいじか・形に現れるもの、形になったもの)の現象、つまり「**物質**」として現われます。

一般的に十二支を「ネズミ・牛・トラ・ウサギ・・・」など動物に結びつけて理解していますが、本来の意味はこうした動物とは全く関係はありません。これはかつて庶民に十二支を浸透させるため、動物の名前を便宜(べんぎ)的に当てたに過ぎません。そもそも十二支は、「子(ね・種子)」から始まって「亥(い・核となって芯ができる)」に至る植物の発達段階を12区分して表したものです。ですから十二支の意味を「動物」に当てはめて説くことは気学的には邪説です。たとえば今年は「午(うま)」の年なので「馬のように駆け巡る～」「馬車馬のように働く～」等、馬に当てはめて十二支を説くことは、気学とは全く無縁の俗説・迷信であると言えます。

そもそも十干と十二支の関係は「幹と枝」の関係といわれ、そのために「幹」と「枝」の文字にはそれぞれ「つくり」の部分に「干」「支」の文字が含まれています。つまり幹から枝が生まれ、伸びるように、十干(精神)を基として十二支(物質)が生まれ出されるとされます。

**十二支**は「**大地の作用**」を示し、それは「**経済・農作・水産・産業・物質・生理・肉体**」等となって具体的に現われるとされています。

次に**九星**ですが、これは『人の気』であり、『人の作用』(人に対して及ぼす作用)を表します。したがって形而上(けいじ)・形而下いずれをも含むもの。つまり、人が生き抜くためのすべての作用を意味するもので、「**精神と物質・物心両面すべて**」の現象として現われます。具体的な現象としては、「**天候・政治・思想・世論・精神・風潮・経済・農作・水産・産業・物質・肉体**」(十干と十二支が示す作用のすべて)に反映するとされています。

『気学』では、「十干・十二支・九星」が相互に関連・作用して、自然界は営まれていると説きます。したがって、その年の「十干・十二支・九星」の意義・意味を探究することによって、その年の事象・機運を具体的に予見することができます。

## 「**丙(ひのえ)**」の意味 《火性・陽性》

今年の『**天の気**』である十干(じっかん)は「**丙(ひのえ)**」です。

「**丙**」の字源・字形は生贄(いけにえ)を神に供える机を模(かたど)ったものです。神に供え捧げる行為は、神にしっかりと届くようにと願って行うもので、陰で秘密裏に行わず、衆目に晒(さら)して明らかに行ったことから、この「**丙**」に「**明らかにする・明るい**」という字義を具えるようになりました。また「**丙**」は、太陽の光や火の灯りで「**明らかになるさま**」も意味されており、このことから「**光・明らか・旺(さかん)・丙(さかん)・華やか・強い**」の意味を具えます。

ちなみに「**丙**」に「火へん」を付した「**炳**」の字は、「あきらか」と読みます。また、「**丙**」に「疒(やまいだれ)」を付けると「**病**」となります。「**病**」は「体調が不調になったことが明らかになった」ことを意味します。また、「**疒**」は「寝台」を表す「**月(しゅう)**」が原字で、「**病**」とは「元気で力が**丙(さかん)**な人が寝台・床(とこ)に臥(ふ)す状態」を意味するとされています。

「**丙(ひのえ)**」の意義から言えることは、今年は「**物事が明らかになり、盛んになる**」。「**強い光**

を帯びる」。また、「エネルギーが極限に達し、さらに強さを増す」。「他者を寄せ付けず、孤高(ここう)の強さを発揮する」の事象が発生すると言えます。今年はこの事象が「気候・政治・思想・哲学・世論・風潮」に現われるようになります。

### 「午(うま)」の意味 《火性・陽性》

『地の気』である十二支の「午(うま)」の原字は、お餅をつく「杵(きね)」を表現したものです。ですから「突かれる」。「叩(たた)き合う」の意味を持ちます。またこの「午」に「𠂔(りっしんべん)」を付けると「忤(さから)う」となり、「𠂔(しんにょう)」を付しても「迕(さから)う」となります。このことから「午」には「さからう・つきあたる・そむく」という意味を持ちます。また、「つきあたる」ということは、「進むだけ進んで、その結果突き当たり、そして『戻ってくる』こと」を意味します。「午」には「極まる・高まる・極まって交差する」という意味があり、そこから転じて「交わる・交錯する・たてよこ」の意味を持つこととなります。「午」の音である「ゴ」から「互」に通ずるといわれ、そのため「午」には、「相互・お互い」の意味を具えるとされます。一日の中で、太陽の軌道が最高になることを「南中」と言いますが、太陽軌道が一年で一番高い「夏至の南中」の時間は「正午」です。「正午」は、一日の時間経過で、「陽」の気が最も高まりを極め、そののち日没へと向かって行く時間です。「極まって交差する」こととなります。「正午」は「正に午」です。「正午」がピークであり、正午の前の時間帯を「午前」といい、正午の後の時間帯を「午後」と言います。

以上、「午」の意味をまとめますと、「突かれる・叩き合う・さからう・そむく・つきあたる・極まる・ピークを超える・極みを過ぎる・交錯する・交わる・お互い」という意義を持ちます。

### 「一白水星(いぱく すいせい)」の意味 《水性・陽性》

『人の気』である九星の「一白水星」が持つ象意は、以下の通りです。

「流動性・冷却性・浸透性・溶解性・冷却性・変容性・大衆・庶民・市民・実用・普及・徹底・貫徹・執拗(しつよう)・執念・執着・落下・降格・欠落・穴・穴を掘る・落胆・失意・苦勞・悩む・煩悶(はんもん)する・苦悶・困窮・迷う・誘惑・粗悪・目下・下位者・従業員・下層・低地・最低・大本・基本・基礎・根底・基盤・水・液体・飲料水・海・川・滝・池・湖・沼・泉・温泉・溝・雨・雪・雹(ひょう)・霧・水利・水産・船舶・井戸・水田・用水・冷え込む・冷静・冷淡・氷・流れる・放浪する・滲(しみ)みわたる・感化・影響・溶(と)ける・形を変える・融和・融通する・軟弱・感化・忍耐・火を消す・消防・根源・原因・兆し・端緒(たんちよ)・併用・二者・半分・中間・並列・結合・協力・共同・一体感・愛情・人間愛・愛嬌(あいきょう)・反乱・反抗・猜疑(さいぎ)・疑う・秘密・秘匿(ひとく)・盗む・深い・深刻・行き詰まり・終末・黒色・無色・夜・暗黒・日陰・影・色情・歡樂・飽和」。

以上が十干・十二支・九星の「丙(ひのえ)・午(うま)・一白水星(いぱく すいせい)」が示す意味・象意ですが、これらのことが、今年の「気候・政治・思想・哲学・世論・風潮・経済・産業・農水・気候・生理・健康・保健」の事象、すなわち生活全般の現象に現われるようになります。

これに基づいて、『令和8(2026)年の運氣』を考えてみたいと思います。

## 『今年（丙・午・一白水星）の展望』（令和8年2月4日～令和9年2月3日）

### 《今年、心がけたいこと》

「丙（ひのえ）・午（うま）・一白水星（いっぱく すいせい）」の気を受ける本年。その気に則した行動をすることによって、自身の運気を高めて行くことができます。その「行動・実践行」について記します。

じつは「年回り」というものがあり、人によって本年が「盛運期」にあたる人もいれば、「衰運期」の人もいます。そのために行なうべき「行動・実践行」は、人によって違ってきます。その違いの詳細は後述の『生まれ年による今年の運気』の項で記していますのでご参照ください。

一方、今年一年間、自然界のすべては「丙（ひのえ）・午（うま）・一白水星（いっぱく すいせい）」の気を受けるため、万人は等しくその気を受けて一年を過ごすこととなります。したがって万人が共通して心しなければならない「行動・実践行」というものがあります。たとえば言いますと、「冬」になると、みんな「厚着」をして「冬」を過ごします。「冬」に則した行動をします。「厚着」することは、万人が等しく行う行動です。これと同様に本年の十干・十二支・九星に則した共通の行動があります。本項ではこの共通して行なうべき「行動・実践行」、万人が等しく行うべき「実践行」について触れます。その実践行とは・・・ 以下の三つです。

- ①『隠しごと、秘密を作らない。堂々として。ウソを言わない』
- ②『怒（ゆる）す。責めない。相手に合わせる』
- ③『足許（あしもと）の実践。目の前のことを大切にして、努力を積み重ねる』

#### ①『隠しごと、秘密を作らない。堂々として。ウソを言わない』

「丙（ひのえ）」の気は、「何事も明らかになる」という意味を持ち、これが一年間に影響を及ぼします。太陽の光がこれまで隠れていたものを照らし出し、「隅々（すみずみ）に光を当て、明らかになり」ます。したがって、「隠しごと、秘密を作らない」ということが今年は大事です。今年行ったことは、すべからく「あきらか」になります。ですから、いつも「公明正大にしておく」ことがとても大切です。善い事も悪事も必ず「露見」します。「堂々としておく」ことです。行動に「裏表が無い」ことが求められます。ですから「ウソは言わない」ことは、とても大切です。いつでも、誰に対しても「正直」で「清廉潔白（せいれん けっぱく）」であることが大事です。このことを貫けば、今年、追い風を得た勢いのある一年を送ることができます。

#### ②『怒（ゆる）す。責めない。相手に合わせる』

十二支の「午（うま）」が具える「極まって交差する」「さからう、そむく」という気を受けるために、今年は「ぶつかること、戦うこと」が多いようです。意見、理念、主義主張、感情、思い、エネルギーが極まり、「ぶつかる、叩（たた）き合う」ことが頻発（ひんぱつ）するようです。したがって「受け入れる・許容する」。相手を「責めず、怒（ゆる）す」という姿勢が大切になります。また今年は一白水星の年でもあります。「水は方円の器に随（したが）う」の如く「相手に合わせる」ということが、とても大事な年です。「ぶつかり合う」ことが多いだけに、ぶつかってしまう原因を相手に求め、

「誰かのせい」にしたいがちですが、「誰かのせい」にしているうちは、問題の真の解決は生まれません。大切なことは「怨(ゆる)す」ことです。そのためにも水のように「相手に合わせる」ことがとても重要になります。「水」の特性の一つである「変容性」を発揮した一年を送ることが大事です。「水は方円の器に随(したが)う」という言葉もあるように、「水」はあらゆる形の器に変容して収(おさ)まるという特性を持っています。この相手に合わせるという「変容性」が求められる年です。これによって物事は順調に進んでいく年です。

### ③ 『足許(あしもと)の実践。目の前のことを大切に、 努力を積み重ねる』

今年の九星である一白水星の象意に、「徹底・大本・根底・根源・原因・端緒(たんちよ)」があります。そのため、今年は「起こる事象の一つひとつを大切に、足許(あしもと)をしっかりと踏み固める」、「未来への重要な足掛かりを築いていく」ことが大事です。今年は「足許(あしもと)の実践」を大切にしましょう。努力の一つひとつを積み上げて行くことによって、物事を成就させることができます。成就した出来事は、影響力を強く持ち、広く人々に浸透していきます。「水」には染み込んでいくという「浸透性」、流れ広まって行くという「流動性」、ものを溶かすという「溶解性」を特性としますので、成就した出来事は多くの人々へ広く、深く浸透していき、たとえ「難関」だと思われた問題でも、溶けていくように「難関」が氷解していくことができます。今年の心構えとして、「目の前の実践を疎(おろそ)かにせず」、「一つひとつ、努力を着実に積み上げて行く」ことがとても大事です。

### 追 加： 庭野会長の指導との整合性

庭野会長は今年の『信行方針』で、「しっかりと肝に銘じて精進し、未来を担う青少年の範となるよう、私たち一人ひとり自己を錬磨し、家庭をととのえていくことを日々務めていきたい」と指導くださっています。加えて日頃より、「恥じる心を持つ。敬う座に着く」ことの大切さを指導くださっていますが、この「恥じる心を持つ、敬う座に着く」実践は、気学で示すところの本年の「実践行」にほかなりません。

つまり、『信行方針』で示す「しっかりと肝に銘じて精進する」は、気学で言う「目の前のことを大切に、一つひとつ努力を積み上げて行く」ことであり、庭野会長の指導の「恥じる心を持つ。敬う座に着く」は、気学で示す「隠しごと、秘密を作ってはならない」、「相手を責めず、怨(ゆる)すこと」の実践行そのものです。

しかも今年の庭野会長の「書初め」は、『素心(そしん)』と『深念(しんねん)』。『素心』は「素直な心」、『深念』は「仏さまの教えに導かれ、有り難い教えを頂いたことを深く思うこと」です。『素心』は「隠しごとをせず、ウソをつかない」ことです。したがって『深念』の姿勢とは、「足許(あしもと)の実践を疎(おろそ)かにしない」ことを意味します。

庭野会長が示す実践行は、不可思議なことですが、気学が示す「天地運行の理」の実践行と符合(ふごう)し、帰一(きいつ)していると言えます。

# 『今年の政治・経済・天候・社会事象』

## 《政治》

「政治」を司る本年の十干(じっかん)は「丙・ひのえ」です。この「丙」には「さかん・強い・あきらかになる」という象意を具えることから、今年の「政治」は大きな力が動き、強い反発がピークになってぶつかり合いが生じることが予想されます。そして互いの主義主張がこれまで以上に強く主張され、激しく鎬(しのぎ)を削り合うことになります。このことから国政選挙の実施が想定されます。しかもこの選挙は、政権の在り方が問われる重大な選挙になることが予想されます。政権交代まではいかずとも、連立の枠組みに影響を及ぼす選挙になるものと思われます。本稿を執筆している1月17日、すでに政局がらみの話題が報道されており、衆院解散が取りざたされていますが、これは今年の運気に即した現象であり、衆院選挙は必至であることが指摘できます。

ただ、「政治」の象意を持つ「六白金星」が、本年は「最低・どん底・穴」を意味する「坎宮・かんきゅう/一白」に廻座(かいざ)しており、かつその座位が、36年に1度の確率で発生する「破壊殺・暗剣殺」を同時に背負うということから、今年の国政選挙は、政権与党にとって厳しい結果を生むものになるのではないかと思います。

しかし一方では、同じく「政治」の象意を持つ「九紫火星」が、9年に1度の「最盛運」を示す「巽宮(そんきゅう)/四緑」に廻座していることから、吉凶相交(あいま)じり合い、政権与党にとっては必ずしも厳しい結果に終わるものではないと解釈できます。政権与党にとっては一概(いちがい)に不利ではないかもしれません。

以上、選挙における政権の盛衰が判定しづらいため、そこで、各政党の代表者の「盛衰運」を以て選挙結果の推測を試みたいと思います。

各党代表の本年の運気を鑑定すると、高市早苗・自民党総裁(三碧・四緑)⇒「収穫・変動運」//吉村洋文・日本維新の会共同代表(七赤・四緑)⇒「準備・変動運」/藤田文武・日本維新の会共同代表(二黒・一白)⇒「天祐・静観運」//野田佳彦・中道改革連合共同代表(七赤・五黄)⇒「準備・光華運」/斉藤鉄夫・中道改革共同代表(三碧・五黄)⇒「収穫・光華運」//、玉木雄一郎・国民民主党代表(四緑・六白)⇒「変動・低迷運」//、田村智子・日本共産党委員長(八白・六白)⇒「発展・低迷運」//、山本太郎れいわ新選組代表(八白・二黒)⇒「発展・天祐運」//、神谷宗幣参政党代表(五黄・三碧)⇒「光華・収穫運」//となり、このことから各政党の運気を鑑定します。

自民党は現状維持もしくは微増、日本維新の会は微増、中道改革連合は堅調、国民民主党は微減、日本共産党は現状維持もしくは微減、れいわ新選組は現状維持もしくは微増、参政党は増加が予想されます。一人勝ちの政党もなければ、一人負けの政党もなく、与党の獲得議席数は、良くて過半数をギリギリ超えるかどうかです。自民党の単独過半数は難しいところです。

選挙結果を総じて申しますと、「与党微増、野党微減」という結果でしょう。与党の大幅な安定多数の確保は望めないと思います。強気で解散に臨んだ高市首相の思惑は、少し期待外れとなる結果が想定されます。少数与党に変わりありません。

ただ、気になるのは高市首相に「変動運」があることから、選挙結果がさほど思わしい結果でないために、無理な解散を打って出たことに対する党内批判、責任追及が熾(さか)なり、高市総理の党内基盤に陰(かげ)りが生じる可能性があります。また、連立の「枠組み」に変化が生じるかも知れません。これまでの自民・維新連立に他党が加わるなど、変化が生じる可能性があります。

十干が「丙(ひのえ)」であることから、何事もつまびらかになります。加えて「秘密・秘匿(ひとく)」の意味を持つ「坎宮(かんきゅう)」が、今年「破壊殺・暗剣殺」を同時に背負いますので、これまで隠蔽(いんぺい)していた施策の不備や不祥事などが露見します。もしくは記録や報告の改ざん等が次々に明らかになり、これまで隠していたことが白日の下(もと)に晒(さら)され、政治問題となるでしょう。政権運営にも影響を及ぼします。

物価高は円安傾向が収まらず、物価上昇は避けられません。ドル160円台突入も想定され、輸入品価格が上昇し、物価上昇の流れが無限ループのように続くことが心配されます。しかし一方では、消費税の見直しによって米や食料品等の価格上昇が抑えられ、かつ、ガソリン税停止でガソリン価格が下落するため、物価上昇に歯止めがかかるようです。物価上昇率は昨年ほど高くはないものの、プラス2・1%程度の上昇は覚悟しなければなりません。年間を通し、人手不足は解消されず、これにより、国内経済の成長が抑えられます。労働力の確保は、今年も大きな政治課題です。女性や高齢者の雇用促進をどこまで政府が進められるか、真価が問われます。

国際政治では、米国の自国第一主義が激化し、これまでの自由で安定していた国際秩序に不安定要素がはたらき、国際間の外交で多くの対立が生じるようです。特に米国と欧米諸国(EU)間での対立が生まれる可能性があります。大国の覇権主義が世界を揺るがし、国際紛争の激化も危惧されます。残念なことです、世界的に紛争が収まって行く傾向は、今年、実現しないようです。ウクライナ紛争の和平、中東紛争の和平協定の年内確立は無理かもしれません。中国と台湾間、中国とフィリピン。中国とベトナム。ロシアとウクライナ。北朝鮮と韓国。米国とメキシコ。米国とカナダ。こうした二国家間での緊張の高まりが強くなるようです。

## 《経 済》

経済の動向は、十二支「午」と、九星「一白水星」の象意と、本年の九星配列をもとに鑑定します。本年は、経済を示す「兌宮(だいきゅう)」に三碧木星が廻座(かいざ)していること。さらに経済の象意を持つ七赤金星が、「坤宮(こんきゅう)」に廻座していることなどから推定します。

今年の経済動向は、これまで以上に米国の政策が国内経済に大きく影響を与えるようです。これは、関係性の意味を持つ四緑木星が、変化・変動の象意を示す「艮宮(ごんきゅう)」に廻座していること。そして日本からみて米国の位置が、その艮宮の方位である東北に位置していることから推測できるものです。具体的には、トランプ関税率の大幅な上昇が国内経済に影響していきます。また米国の法人・所得税減税で米国景気が高まり、それが追い風となって日本の輸出・生産を徐々に持ち直していくことが予想されます。今年の実質GDP(国内総生産)成長率は低成長ですが、プラス0・6%あたりでしょう。



経済振興で大きな問題は労働力の不足です。わが国の生産年齢人口(15～64歳人口)の減少によって、労働力不足は深刻です。外国人労働者の積極的な受け入れ、または高齢者や女性の労働参加の促進によって、ひっ迫した労働力不足解消への動きはありますが、自国ファーストの考えが席卷(せっけん)し、外国人に対する不満の高まりにより、こうした外国人労働者の受け入れに抑制がかかっていくことが心配されます。

物価高は依然として変わりませんが、わずかながらでも今年の物価上昇は抑えられるようです。景気は上昇し、内需も拡大していくものと思われます。ただし住宅投資は前年の増加の反動を受け、減少傾向になると思われます。個人住宅、分譲マンションの着工戸数は伸び悩むでしょう。しかし賃貸マンションの伸びは期待できます。今年、住宅ローン金利アップが予想され、加えて人件費、材料費の建築コスト上昇が、昨年と同様に引き続いて起こり、それによる個人住宅、マンションの建設価格高騰が伸び悩みの原因となるでしょう。一方、企業の設備投資は年間を通して緩やかな上昇傾向を迎え、それにより内需拡大が期待されます。これもまた、内需拡大にとっての好材料です。

今年は「公権力」を意味する六白金星が、穴、底、落下、下落を意味する「坎宮(かんきゅう)」に位置するため、減税への動きが促進されるでしょう。食品の消費税の廃止等が実施されます。この減税や控除額の改正等により、手取り額のアップが図られ、その結果、可処分所得が増加し、個人消費が促進されて行きます。内需も拡大し、景気浮揚が図られます。

また、「金利」を象意とする七赤金星が、年後半の高揚を意味する「坤宮(こんきゅう)」にあるため、「金利」の上昇は夏以降に行われると思います。しかしこの金利上昇は、円安傾向を抜本的に改善するまでには至らず、円安は進行し、ドル160円台突入を記録すると思われます。

依然として化石燃料の消費依存は続きますが、脱炭素化の推進や化学技術の発展で、世界的に化石燃料の消費量が削減されていきます。自動車における内燃機関(エンジン)車の生産減、電気自動車の量産増。省エネの促進によってガソリンの需要低下が進み、その影響で原油価格の下落が予想されます。加えてガソリン税停止等、化石燃料を取り巻く経済的環境の変化が景気の後押しをして行くようです。ガソリン等の化石燃料の価格下落は、輸送費コスト、ビニール等化学製品の価格減となり、物流商品の高騰を抑えて行きます。その結果、購買力は促進されます。内需拡大の力となります。しかし一方では、円安によって輸入品目の価格上昇は否めず、鉄鉱石・レアメタル・大豆・トウモロコシ・小麦・食肉・野菜・フルーツ・飼料穀物等の輸入品価格上昇は覚悟しなければなりません。したがって消費者物価指数は毎月上がっていくことになります。

株価も上昇傾向ですが、金融を表わす六白金星が、今年、最低・底・穴の意味を持つ「坎宮(かんきゅう)」に廻座(かいざ)し、加えて暗剣殺、破壊殺を同時に担っていることから、夏以前の取引では株価高ですが、夏以降は株価減が想定されます。急落の可能性もあるようです。したがって年前半期での売りは狙い目です。

今年、好調な業種は医療・薬品・化学・科学・光学関連・電気関連・美容・化粧品関連・ファッション関連・観光・交通・工芸・教育・出版・興行(映画)・写真・宣伝・広告関連などの業種。これらの銘柄株は期待できるようです。



## 《社会事象》

今年の十二支「午」と九星「一白水星」の象意で推定します。

今年はAIやインターネット、コンピュータ関連の障害、事故、事件、犯罪が社会的に注目されます。AIの活用は国民生活に予想以上に浸透しており、今年はそれによる事件が発生するようです。本人なりすましの映像・音声。フェイク情報が社会の混乱を生み、犯罪に利用されることが注目されます。リアルとバーチャルの見分けが難しく、大きな社会問題になるでしょう。これらは、AIやインターネット、コンピュータの象意を具える六白金星が、最低・陥(おとし)れるの象意を持つ「坎宮(かんきゅう)」に廻座(かいざ)し、加えて暗剣殺、破壊殺を同時に背負っていることから判定されるものです。

社会全体としては、依然として人手不足は深刻な問題です。改善は望めず、人手不足による労働力の低下から抜け出せません。しかし、高齢者の労働環境が安定していき、高齢者による労働力確保が促進されます。また女性の雇用促進も図られますが、完全な労働力不足改善には至りません。雇用促進のためには賃金アップが大事な施策ですが、春闘ベースアップはここ去年のベースアップは超えないものの、ここ数年の平均を上回り、減税効果や控除額の改善等も合わせて図られ、所得増になるでしょう。これによって個人消費は延び、社会全体として景気浮揚につながります。

今年、問題となるのは、議員・官庁・自衛隊・警察などの公権力を有する組織や公人の不正や不備。また、裁判所・検察・弁護士など法曹界。金融証券関連。船舶関連・水産業・水運関連業界。科学技術・生物化学・科学技術関連。その他、医学界、医療関連業界、医薬・薬品関連、化粧品業界、美容業界、教育界、進学校、予備校、教育産業、警備関連業界、芸能界、宗教界、音楽関連、マスコミ・スポーツ界での不祥事や事故が社会の耳目を集めます。特に政治家の汚職、官僚・公務員の不祥事は、今年大きく取り扱われることになるでしょう。

今年は「水」や「液体」に関連する事象が注目を浴びます。豪雨や水害、海難事故。薬品、化粧品、ガソリンも「液体」。こうした事故が心配されます。

一方、「水」とは反対に「火」に関する事象も注目され、火災の多発、大規模化が今年も懸念されます。驚異的な気温上昇による自然災害・山火事・化学関連施設、石油コンビナート、教育施設での火災が心配です。

今年の流行色は、白、黒、グレー、金、銀、赤、黄、青、緑、水色などです。

## 《自然・天候・農業・水産・災害》

一年を通じて晴天の日が多く、気温は昨年以上に高くなると思われます。7月は記録的な猛暑になることが予想されます。したがって熱中症の多発に要注意です。しかし一方では突然の豪雨もあり、海面温度の上昇による台風、暴風雨の発生が多い年です。6月の梅雨は空梅雨傾向で、8月の渇水が心配されますが、8月、9月と台風が多く、結果的に水不足には至らないと思います。

今年は土砂崩れには注意をしなければなりません。河川流域、海岸、湖畔、湿地、低地での水害も心配です。堤防の決壊、豪雨による土砂崩れ、がけ崩れ、崩落です。また、河川流

域のみならず山間地域、山あいでの雨天時における警戒は特に今年は必要です。

大潮、高潮による被害も心配です。また、雹(ひょう)、霰(あられ)の被害が目立ちます。冬季の雪害も要注意です。年頭2月、そして12月から翌年1月にかけては大雪傾向です。

梅雨は短く、空梅雨になると思われます。気温上は年間を通して続くため、春や秋の期間が極端に短く、四季の国のわが国は、夏と冬だけの“二季”の国になるようです。したがって農作物にも大きく影響を与えます。夏焼で夏を乗り切れない作物も数多くあり、残念ですが農作物の高騰は覚悟をしなければならないようです。一方、水耕栽培は堅調で、収穫増を望めます。水耕栽培でよく行われるレタスやイチゴなどの増産が期待されます。

海面温度が上昇するために、養殖水産にもダメージはあり、漁獲高上昇は望めません。これまで魚類を多く摂取しなかった諸外国で、日本食ブームも相まって各国での魚類需要が高まり、それによってわが国の漁獲量安定確保が十分に行えません。これまで食卓では魚は手に入りやすい食材で、かつ、食肉に比べて魚は安いという定義は崩れます。魚介類全般の価格高騰が想定されます。また海面温度の上昇は、プランクトンの異常増殖にもつながり、赤潮の発生も頻繁に起こり、かつ磯焼けも懸念され、養殖水産や沿岸漁業は大きなダメージを受ける恐れがあります。したがって、養殖のマグロ、ブリ、ハマチ、タイ、カンパチ、ヒラメをはじめ、アジ、サバ、タラ、スズキ、エビ、ウニ、ノリ、ワカメの魚類、甲殻類、海藻類。そして、アサリ、ハマグリ、サザエ、カキ、ホタテ等の貝類の収穫に、大きな打撃があると思われます。

今年は火事が多いようです。大火になる危険性を孕(はら)んでいます。ワンブロック丸ごと、町一つが火事。などという大火災の危険性があります。火の元・火の用心は特に心掛けなければならない年です。

昨年のような山火事多発も心配です。火山の噴火も懸念されます。したがって活火山や休火山の登山は注意を要します。火山の噴火、火砕流、溶岩流出、噴煙・噴石被害も懸念されます。地殻変動等、活発に発生すると思われますが、昨年ほどの大きな地震はないようです。この点、安心材料です。

# 『生まれ年による今年の運氣』

注意： 1月1日～2月3日生まれの方は、前年の生まれ年となります。

(例:昭和48年2月3日生まれ ⇒ 前年の昭和47年生まれとみます。したがって「一白水星」)

なお以下の運氣は、満10歳未満の人には作用しません。主に青年期以降の人に影響する運氣です。

いっぽくすいせい

《一白水星》 大正7、昭和2、11、20、29、38、47、56、平成2、11、20、(29、令和8)年生まれ

## 【自責・静観運】 — 『すべて、これまでの己が現れる』年。

良くも悪くもここ9年間行ってきたことが「表面化・顕在化」します。今年の出来事は「すべて自分が行ってきた結果」であると受け止める姿勢が必要です。たとえ悪い出来事が起きても、決して「人のせい」にせず、「すべては自分」として何事も「自身の学び・成長」として活かす姿勢が肝心です。どうしても「人を責めなくなる」気持ちが起きやすいのですが、「人を責めない・咎(とが)めない」ことが大切になります。今年は全体の中央に位置するという「気」を受けるため、責任を持ち、好まざることに出会っても「逃げない」という姿勢が大切になる年です。ですから「無責任」な行動は、運氣に逆らう行動となり、自身の成長と幸せな人生を築く上で逆効果と成ります。「何があっても責任を取る」という姿勢が望まれます。今年は、まわりの人々を先導していくというリーダー的な存在として活動していくと思われれます。全体の「中心」となる活動をしていく年となるでしょう。

今年は新規事業に着手する年ではありません。あくまでもこれまでの行動の結果が出る年だと位置づけることが大事です。現われた成果はその規模の大小にかかわらず、すべてこれまでの自分の現われにすぎないので、たとえ小さい成果であっても、それを不満に思い、「欲を出し、食欲(どんよく)に深追い」をすると、結果的に不運の深みにはまります。現われた結果をそのまま「受け止める」ことが肝心です。

年前半は好調ですが、夏ごろから運氣は下降気味で物事は思うように進まず、「八方ふさがり」という閉塞(へいそく)感を感じます。「腐る気持ち」になり「不満、グチ」が多くなるでしょう。大切なことは自身の「分をわきまえて」、「謙虚・慎重」に徹すること。今年は「強引さ・独断専行」を控え、「調和・周囲への感謝」を心がけましょう。そうすれば八方ふさがりではなく「周囲から支えられている有難さを実感する」年となります。今年は「変化・変動・波乱」を受けやすい年です。「別れ」を経験するでしょう。別れは悪いことばかりではありません。子どもの就職、進学、結婚という慶事も、実家を離れるという「別れ」です。悪い習慣から脱するという「別れ」もあります。また「古い問題の再燃」、「古い病氣(既往症)の再発」の可能性があります。今年は「足許(あしもと)の実践という人としての「根幹」を築く精進をつとめましょう。そうすれば運氣を高めるだけでなく、ひいては今後9年間の大切な基礎を作ることができます。

【大切な信行】手どり・導き・読経供養・法座・陰徳・陰役・布施行・健幸行・参拝・財施・家庭実践

【健康】心臓・脾臓・大腸・発熱・熱中症・食中毒・腫瘍・化膿・便秘・火傷・既往症・解毒

じこくどせい  
《二黒土星》 大正6、昭和元、10、19、28、37、46、55、平成元、10、19、28、(令和7年)年生まれ

【天祐・結実運】 — 『天の助け』を受け、これまでの努力の『集大成』の年。

天祐(てんゆう/人知を超えた思いがけない助け)を受け、今までの努力の「成果」が見えはじめる年です。天祐とは、不思議な力が後押しをしてくれることを意味するもので、そうした支えを実感する経験をするでしょう。それゆえ、神仏に感謝し、神仏を敬うことを大事にしたいと思います。今年は完璧な収穫を迎えるというよりも、収穫の時期に入って「いよいよ実って来た」ことを感じます。「心身ともに充実」するために新しい事業に着手したくなりますが、今年はまだ、その時ではありません。あくまでもこれまでの努力の「集大成・収穫」を迎える年だと位置づけて、新規事業の着手は控えましょう。「利益の深追い」をすると、本来の収穫ができません。「多欲」は結果的に好運気を逃すことになります。

また、知らず知らずのうちに「自分の考えは正しい・優れている」と思い、他者からの助言を排除し、場合によっては相手を見下す傾向があります。周りが愚かに見えてくることがあるようです。どうしても「権威・権力」を主張しがちになるため、「傲慢(ごうまん)・独断専行」になりやすく、「謙虚・感謝」を忘れないことが大切です。何かと「自説を強く主張」しがちで、理屈っぽくなる可能性があります。今年は「対立・訴訟・係争」の気をもっている年でもあるために、人とぶつかることが多い年です。これを避けるためには、自身の「分をわきまえ」ということが大事です。そうすれば、不用意な「対立・係争」を生むことはなくなります。「忍耐」を心がけ「過度な自己主張・多欲を慎む」ことが肝心です。

今年は「父親・夫・年長者・上位者」から助けられ、信用を得ます。「善き師・人生の師」に出会える年でもあります。「父親・夫・年長者・上位者」を敬い立てていけば、運気は高まります。反対に「父親・夫・年長者・上位者」と対立、蔑(さげす)むようなことがあれば、自身の運気を下げて行くことになります。今年、「昇進・昇級」し、「上位者からの評価」を得るでしょう。また、「気持ちも大きく」、「強気」になりやすく、行動も大胆になりがちです。それに比例して出費も多くなります。儉約を心がけることが大事です。

今年、「交通事故・刃物の取り扱い」に注意。「投資・投機」は可。「外科手術・体にメスを入れる」という暗示あり。

【大切な信行】 神仏を敬う・先祖供養・手どり・導き・布施行・説法・健幸行・参拝・お給仕・財施  
研修・親孝行

【健康】 頭部・心臓・循環器系・首・肺・皮膚・爪・裂傷・刺し傷・刃物、金属の取り扱い

さんぺきもくせい  
《三碧木星》 大正5、14、昭和9、18、27、36、45、54、63、平成9、18、27、(令和6年)年生まれ

【収穫・満悦運】 — 『収穫と感謝、多欲を控える』年。

これまでの努力の「成果」を実感し、「収穫」を迎え、「悦び」が多い年です。譬えるならば秋の実りの時季であり、よろこびの収穫の時季を迎えたことになります。年間を通して満足した「悦び多い」年です。この「悦び」は、満足感による「悦び」です。

今年は精神的・物質的・経済的に「充実」します。これまでの努力が認められ、「成果・評価」を得ることができます。財運も整うのですが、「お金の流れが活発化」する気を受けるため、収入は増加しますが、かたや出費も増える傾向にあります。この出費増は人とのお付き合いに関するもので、社会との交流が増えるに従っての交際費増です。そのため、分を過ぎる交際費増に気を付けて、「貯蓄・儉約」を意識することが肝心です。今年は「生活が派手」になりがちなので、「快楽」に走りやすいので、「自制・自重する」強い心が求められます。今年は「盗難」「紛失」に注意を要する年です。戸締りをしっかりとすること。そして行動の一つひとつを丁寧に行い、身のまわりをちゃんと確認していくことを心がけて行きましょう。投資は副業に成果がある年です。

諸事順調に進むので、つい「分を過ぎる行為」をしやすいためこの点は要注意。気分的にアゲアゲ(テンアゲ/テンション アゲアゲ)ですので、落ち着いて行動することが大事です。したがって「礼儀・礼節」を重んじることが今年の開運の鍵です。「礼義・礼節」を大切にすることが今後の運氣高揚に重大な影響を与えます。「礼を重んじる」ことは重要です。そしてその「礼」の根本は、今ある「いのちに感謝」し、あたりまえのことに感謝して「不平不満を言わず」に過ごすこと。このことが「礼」の根本です。「感謝、不平不満を言わない」ことを大事していきましょう。

今年は「搗(つき)減り」といって、価値は高まっても全体の総量が「七、八分(ぶ)に減ずる」という気を持っています。収穫期の本年、折角の収穫は「七、八分止まり」で終わっても、不満を覚え、感謝の心を持つことが大事になります。

あらゆる面で「満足感」を覚えることができる年ですが、その満足が自分自身の満足だけに終わらず、他者に尽くす満足や、他者と共に感得する満足であれば、今後の人生を築く上で運気を高めることになります。自分だけの満足に終わる一年であれば、衰運期に入る翌年以降、難儀を強いられる結果を招くことが危惧されます。

今年は自身の「発言・舌禍(ぜっか)」には要注意です。「不用意なひと言」が思わぬ失敗を招くこととなります。平素から「驕(おご)り高ぶらず」に「謙虚」の姿勢でいることが大切です。また他者からの「甘言・誘惑」に惑わされないよう心しましょう。「詐欺」にも注意を要する年です。「趣味・稽古・副業・投資」には一定の成果が出ますが、決して「多欲」に走らず、「七、八分(ぶ)止まり」で満足する「少欲知足」の姿勢が大切です。

**【大切な信行】**布施行・参拝・お給仕・健幸行・手どり・導き・説法・法座・読誦修行・儀式作法

**【健康】**気管支・感染症・耳鼻咽喉・歯・舌・裂傷・刺し傷・刃物、金属、機械類の取り扱い

<sup>しろくもくせい</sup>  
**《四緑木星》** 大正4、13、昭和8、17、26、35、44、53、62、平成8、17、26、(令和5)年生まれ

**【変動・継承運】 — 『変化・転換』と『継承・相続』の年。**

環境や立場に「変化・変動」があります。また、何かを「継承・相続・引き継ぐ」ことを経験します。先代や先輩の事業、意向を引き継いで行動をする。地位や立場を継承する。相続するということを経験するでしょう。そして継承・相続するだけでなく、何かを「改革する」ということが可能となる年です。事業や活動面での「改革・改善」、対人関係の「変化」の年です。これまで

のしがらみ、慣例に固執せず、「改革する勇氣」を持つことが大事です。継承・相続するとはいえ、前例踏襲(ぜんれい どうしゅう)という保守的な姿勢ではなく、「引き継ぎながら改革する」というあり方が今年の運氣です。単に引き継ぐと言うのではなく、その後、改革という動きです。そして、自身の「悪しき習慣」を変えるチャンスのある年でもあり、「生まれ変われる好機」の年です。改革の波が起きますが、安易に改革・変化を断行するのではなく、物事を「客観的・正しく」洞察して改革に取り組んでいくことを忘れてはいけません。

今年は「焦(あせ)りや氣迷い」が生じやすく、「停滞・留まる」という氣を受ける年でもあるために、何かにつけて「行き詰まり・閉そく感」を覚え、「怠け心」が生じることがあります。壁に突き当たり、行き詰まりを感じる出来事に遭遇することもあるでしょう。しかし、そうした出来事に負けないで、一つひとつの努力を積み上げて行くという姿勢が求められる年です。その意味では、停滞を「打破」する強い心や、マナーを打ち破るという強い決意が求められます。まずは「第一歩を踏み出す」「行動に移す」という意欲が必要で、「腹を据えて」コツコツ努力を積み重ねるという姿勢が求められます。「食(むさぼ)り欲する」氣持も強くなるため、「必要以上に欲する心」を抑えることが肝心です。「頑固・強引」を慎み、周囲への「感謝」の念を保つことが大切です。「家族・親族・親友」と仲たがいせず「和」に努め、「神仏・先祖を敬い、感謝する」ことを心がけましょう。「先祖をしっかりと感謝し供養する」こと、そして「家族・友人」を大事にして、感謝を深めることを今年は大切にして行きたいことです。また今年は、「不動産」に関する事象が生じるでしょう。売買、借用等の経験をすると思われますので、慎重に成約していきましょう。そして今年、「別離」を経験しますが、「別離」には良い「別離」もあります。進学、就職、結婚も実家との「善い別れ」です。

今年は「過去の行為の再評価・古い問題の再燃」というこれまで隠れていたことが表面化する年です。また、過去の再評価は、過去の善事の再評価、再確認ということが起こるでしょう。善い評価を得ればこれまでの自身の姿勢に自信と誇りを持ち、一つひとつを丁寧に行っていきましょう。反対に過去の悪い評価を得れば、謙虚に自身の反省と改めていくという強い意志を持つことが大事です。いずれにせよ、「誠実に一步一步を積み重ねる」という姿勢を忘れないことが肝心です。

**【大切な信行】** 先祖供養・手どり・導き・法座・健幸行・布施行・徳積み・親孝行

**【健康】** 既往症・肥満・血行不良・更年期症・腫瘍・骨・関節・脊髄・盲腸・筋肉・皮膚・背中、手足

ごおうどせい  
**《五黄土星》** 大正3、12、昭和7、16、25、34、43、52、61、平成7、16、25、(令和4年)年生まれ

**【立志・光華運】** — 『志を立てる・誓願』の年。

自身の思考が冴(さ)えわたり、自分のやるべきことが明確に見え、「決意・志」を立てることができます。周囲から熱い「期待と注目」が寄せられ、「評価・名声・名誉」を得ます。また「脚光」を浴びる年でもあります。人から注目され、陽が当たるように目立つことがあるでしょう。今年は暗いところにも陽が当たり、これまで隠していたことが「明らか」になります。これまで陰徳を積み、善行を尽くしていた人にはその善行が明らかになり、反対に、これまで自己中心的で、

悪業多き人は「旧悪が露見」し、艱難辛苦(かんなんしんく)を味わう年です。光を浴びて自分自身の「エネルギーを実感」するため、自分でも気づいていなかった才能・能力を実感してそれが表面に現れる年です。自身の「気力・パワーを実感」し、「才能・能力を発揮」できます。

また今年は「天の座位」に廻座する年なので「神仏を敬う」ことが大切です。年後半は下降運期になりますが、「神仏を崇敬(すうけい)」する人は下降運期に入っても良好の運気を保つことが出来ます。「神仏を崇敬(すうけい)」するとは、敬虔(けいけん)な心で手を合わせることですが、大切なことは「神仏への感謝の念」を深めることです。今生きていること。仕事や勉強ができること。家族をはじめ、恙(つつが)なく生活ができていること。そうした当たり前のことが当たり前に過ごせていることを「神仏に感謝する」。これが「神仏を崇敬」することの意味にほかなりません。

今年は年間を通じて「心が急(せ)く、逸(はや)る気持ち」になりやすいので、何事も「地道に努力する」という姿勢が大切です。「軽挙妄動(けいきょもうどう)」を慎(つつ)み、注意すべきことは「熱しやすく、冷めやすい心」や「有頂天・傲慢(ごうまん)」にならぬこと。「謙虚」を心がければ、安泰の一年を送ることが出来ます。自分をひけらかす気持ちが起こり易く、自慢する心が多発し、「自己顕示欲」が強くなる年ですから、「感情的」言動には注意しましょう。また今年は、「イライラ・感情的になる」、「怒り・逆上・激怒・キレやすい」という気が盛んですので、「冷静になる。謙虚になる。心を静める」という行動が大切です。思考力が「冴え」るために、物事の「見通し」が効きますので、こうした感情が沸き起こりやすいと言えましょう。しかし一方では、「気迷い・背(そむ)く心」も生じやすいのが特徴です。先が見えるのは良いのですが、「果たしてこれで良いのか」と一度決断したことを、直ぐ悩み返したり、先が見えるからこそ、相手に強く向かっていくと言う姿勢が、相手への反発として、時には背(そむ)くという行動に成りがちです。やはり「冷静沈着」「感謝」を忘れてはいけません。

株取引は可。また「別れ・対立」を経験します。「訴訟・係争・警察沙汰」「契約や手続き・印鑑の取り扱い」に注意。特に実印を使用する契約については慎重な対応が望まれます。また「火の取り扱い」に注意。「精神面」や「技芸・学問」の向上を図る最適の年でもあります。また「学校関係(教育関連)・官庁関係(公務関連)」の諸事を経験するでしょう。

**【大切な信行】** 読経供養・法座・読誦修行・教学研修・下座行・布施・お給仕・参拝

**【健康】** 心臓・眼・頭部・精神疾患・耳鼻咽喉・舌・火傷・熱中症・発熱・高血圧・更年期症

ろっぽくきんせい

**《六白金星》** 大正2、11、昭和6、15、24、33、42、51、60、平成6、15、24、(令和3年)年生まれ

**【内省・低迷運】** — 『自己を省みる』と『陰徳を積む』年。

最も低調な衰運年であるため苦勞・困難・悩み多く、物事は思うように進みません。運気は最低、衰運の年です。「万事ふさがる」ことを感じる一年です。いまひとつパワーが出ません。苦勞・悩み・困難が多く、「穴に突き落とされ」「突き放された」気持ちになり、奈落の底に落ちて希望が失せたような逆境を経験するようです。しかし、こうした逆境は、単に苦勞ということを意味するものではなく、むしろしっかりと自分自身を振り返る貴重な「自省(じせい)内観(ないかん)」の好機を得たと捉えるべきです。今年の六白金星の座位は、暗剣殺と破壊殺を同時に背負う



という36年に1度の稀有(けう)の廻座(かいざ)の年で、その意味では表面的な反省ではなく、しっかりと自身に深く振り返るということをつとめる年だといえます。36年分の内省をするという意味でもあります。しかも今年は暗剣殺を背負っているために、自身が被害者となる事象、他者からの衝突を受け、いいがかりを突き付けられる。または責任を取らされるといった事象に遭遇します。いわゆる「詰め腹を切らされる」経験をするでしょう。しかし悲観する必要はありません。出来事から逃げずに真摯(しんし)に向き合えば、問題は必ず氷解していきます。今年、自分自身をしっかりと振り返り、内観を深めた人は、人として大事な基盤を築くことができ、将来に向けて大きく飛躍する「跳躍台」を作ることになります。今年は「自身の魂を磨く」「力を充電する」絶好の年だと言え、「愚痴・不平不満・怒り」を口にしないようにしましょう。36年に1度の稀有(けう)の廻座(かいざ)を、悲観や不遇と捉えるのではなく、飛躍のための大切な足場づくりだと受けとめることです。一年を通して「焦り」を感じるがありますが、焦って一発逆転や一攫(いっかく)千金を狙う行動は、むしろ重大な失敗・苦勞を招きます。「厳しい冬」の後には必ず「春」がやって来るように、今年を正しく過ごすことで、人生の「春」は必ずやって来ます。今年は、自分自身を「しっかりと振り返り」、「陰徳」を積む好機だと受け止めることが大事です。

また、「自分を滅し、他者に尽くす。奉仕に徹する」ことが大切な年です。「報いを求めず、私利私欲に走らず」、「慈愛の行」の実践が大事です。今年は残念なことばかりではありません。今年は、水が大地に浸透するように、自身の努力・信条・誠意というものが、多くの人々の心に染み入って行くことができる年でもあります。「誠意」をもって「コツコツと積み上げる」努力は、結果的には人々の心に染み入り、共感と信頼を生むことになります。

今年は外に向かつて積極的にはたらきかけをする年ではありません。心を外に向けるのではなく、自身の内側に向けて「内省・自身の魂を磨く絶好の年」だと位置付け、自身の内面的成長に努めることが重要です。一日一日を「感謝」で送り、「他者への奉仕・布施行・陰徳の行」を実践して行くなればと、それは、二年後にやって来る「盛運期」に大きな力となり、あなたを押し上げて行く徳分となります。今年の金運は不調。また、「水難・秘密の漏えい」に注意の年です。「酒色」に溺(おぼ)れやすい可能性があります。今年手を染めた「異性問題」は必ず長期化するので要注意です。「秘密・隠しごと」をしない。「交通事故・突発事故」に注意。

**【大切な信行】内省・法座・陰徳・陰役・布施行・手どり・導き**

**【健康】血行不良・リンパ腺・腎臓・泌尿器・背中・皮膚・足・婦人病・痔**

しちせきぎんせい

《七赤金星》大正元、10、昭和5、14、23、32、41、50、59、平成5、14、23、(令和2年)生まれ

**【準備・育營運】 — 『努力・準備』と『人を育てる』年。**

「基礎を固め、力を養う」年です。昨年までの衰運期が終わり、盛運の兆しを迎えます。しかし、まだ本格的な盛運期ではありません。本格的な盛運期は夏ごろから到来します。今年はあくまでも次に向けての「力」を具え、準備・基礎固めの年です。物事を新規にスタートする年ではありません。つい、積極策を取りたくなる気持ちになりますが、完全な盛運期でないため「地道に努力」を積み重ねることが大事な年です。怠けないで一つひとつ努力していく姿勢が、

今夏からの「盛運期」で大きく飛躍する力となります。したがって思い付きや、後先を考えない無謀な挑戦、「独断・強引・軽挙妄動」は厳禁です。一つひとつに真摯(しんし)に向き合い、「途中で投げ出さず、投げやりにならない」ことが大切です。今年は「勤労意欲」が高まる年であるため、労を惜しまず「努力」と「忍耐」に徹しましょう。

今年は何事も「感謝」の心を忘れず、まじめに「勤労・精励」することが大事です。すべからく「周囲との調和」を心がければ、大きく成長していくことができます。また今年は「変動・変化」が生じる年で自身の環境・地位に「変化・変動」が生じる年です。「改革や改変」ということを経験するでしょう。「変化」に向けてのチャレンジをすることも大事です。「変化・変動」の最大の現象は「別れ」です。今年、「別れ」を経験するでしょう。「別れ」は悪いことばかりではありません。良い別れもあります。子どもが結婚して親元を離れる。自分が栄転して部下と別れる。悪しき習慣との決別も「別れ」です。この「別れ」は良い別れです。

今年「古い問題」の再燃、「過去の行為の再評価・古い問題の再燃」というこれまで隠れていたことが表面化する年です。また、過去の再評価、再確認ということが起こるでしょう。善悪を問わず再評価されるでしょう。また古い問題の再燃もありますが、やはり謙虚に向き合い、「誠実に一步一步を積み重ねる」という姿勢で対応していきましょう。「古い病気(持病)」の再発の可能性があります。今年は「家庭の和」を大事にし、特に母親、妻を大切にしなければなりません。「妻や母親」「婦人」の助言に素直に耳を傾けることが大切です。今年心がけたいことは「無償の愛・慈悲・思いやり・相手を慈しむ」姿勢が大事です。「家庭の和」を心がけ「家族愛」を育むことが大事な年です。また人を育てる「育成」の好機の年です。「人を育てる」ことに力点を置き、「部下・後輩・下位者・子孫」を大切にすれば、それはとりもなおさず自分自身を伸ばすことになります。しかも今年育成した人材は、将来のあなたの「宝」となります。年の前半は衰運期。年後半(8月以降)から好運期を迎えます。

【大切な信行】手どり・導き・法座・健幸行・布施行・慈悲行・奉仕・家庭実践・親孝行

【健康】消化器・血液・既往症・腰・肩こり・肥満・手足

はっばくどせい

《八白土星》 明治44、大正9、昭和4、13、22、31、40、49、58、平成4、13、22、(令和元)年生まれ

【黎明(れいめい)・発展運】 — 『輝く夜明け、発展、活動開始』の年。

「気力・体力みなぎり」、何事も勢いよく「実行・実践・行動」できます。「飛躍」し、多忙になります。「新規開拓・新規事業」が最適の年。何事も「実行・実践・行動」することが大切。「積極性」が求められますので、何事も恐れることなく勇気をもって「チャレンジ」することが大事です。「積極性」が求められる年ですので、「躊躇(ちゅうちよ)」は折角の好機を逃すことになります。盛運期であるために「自信過剰・独断専行」になりやすいので注意しましょう。「謙虚」な姿勢や「協調性」を忘れないで行動することが大切です。これを忘れると、「自惚(うぬぼれ)れやすく」なり、その結果、足許(あしもと)を救われることになりますので注意します。また他人からの「甘言・誘惑」に乗って、躓(つまず)く暗示があるので要注意です。「落ち着いた」「冷静さ」「客観的にとらえる」姿勢が求められます。何かと「多忙」になるために、慌(あわ)ただしく行動して周囲との「調

和」を壊すことがないよう気をつけましょう。そのためには、まわりの声に素直に「耳を傾ける」「謙虚」、「落ち着き」が大切です。

今年は、良くも悪くも自分の「言葉」に影響力を持つ年なので、「発言」には責任を持ちましょう。自分の発言が思わぬ反響を呼び起こします。したがって「軽率な言葉・失言」「人を咎(とが)め・叱責(しっせき)する発言」が無いよう注意します。グチはだめです。盛運の運気を逃すことになります。「和顔愛語」が重要で、このことに努めれば、運気はさらにアップします。今年、「正しい言葉」を述べて人を「善導」していくことができる最適の年。正しい言葉とは、「私心のない言葉」を意味します。この私心のない正しい言葉を吐いた数の分だけ、自身の徳分が加算され、今後の発展への勢いとなって行きます。それは単に今年で終わるのではなく、これから生涯にわたって影響する大きな功德となります。また、良くも悪くもこれまで隠していたことが「ハッキリと表面化」する年でもあります。正しい行いをしていた人は「成果・評価」を得、大きな「感動・感激」を覚える年になりますが、反対に自分中心で、善行をなさずわがままだったら「旧悪露見」の年となるようです。また善悪問わず「明らかになる」というのは、これまで不調だった身体の病名がはっきりすることや、組織や活動の中で、これまで気になっていたことが「明らかになる」という意味もあります。

今年は「震(ふる)える」という気が生じますので、「感動や喜びで体が震える」「怒りで震える」「恐怖で震える」といった出来事を経験するでしょう。また「嬉しくっていても立ってもいられない」「判断に迷い心が揺らぐ」「心配や後悔で心が揺らぐ」といった心境も経験するでしょう。この「震える」「揺れる」「ぐらつく」ような出来事に遭遇しても、心配いりません。その出来事が善悪を問わず、自分自身が「正しい信念」と「正しい教え、考え」を身に具えていれば、必ず安穩を取り戻すことができます。今年「若者」に助けられることが多くあり、若者との交流を深めることで運気は高まります。「盗難・詐欺(振り込め詐欺等)」、また「火の取り扱い・電気・落雷」には注意しましょう。

**【大切な信行】** 導き・手どり・説法・研修・読誦修行・唱題・布施行・法座・青年育成・親切行  
**【健康】** 耳鼻咽喉・言語機能・肝臓・胃・手足のしびれ・舌

きゅうし かせい  
**《九紫火星》** 明治43、大正8、昭和3、12、21、30、39、48、57、平成3、12、21、(30)年生まれ

**【達成・飛躍運】** — 『万事整い、人からの信頼を得て』、『迷わずこの道を行け』の年。

「盛運期の年」です。運気好調で「業績」は伸び、心身ともに「諸事順調」に整います。充実感・達成感を覚え、人生の素晴らしさを実感できる年です。「能力を発揮」し「計画を達成」して、何事も「成果が現れる」ので「積極的」に行動できます。これまで願っていたことや目標に向かって努力してきたことが、形となって実現するでしょう。消極的な姿勢は折角の好機を逃すことになります。一方、盛運の気に乗ずるあまりに、ともすると「自信過剰・独断専行」になりやすく、一人で突っ走って行く傾向が生じます。思わぬところで足許(あしもと)をすくわれる危険性があります。そうならないためにも物事を落ち着いて判断し、「謙虚」な姿勢、「感謝の心」、そして「協調性」を忘れない「足許(あしもと)」をしっかりとしておくことが大事です。

今年は「交流・整う」の気を受ける年であるために「人脈・行動範囲」が広がります。そのため、忙しくなり、活動的な一年になるでしょう。今年は万事整い、人々から「信用」を得る年です。事業・営業・取引・商談の「成立・成約」が促進されます。特に「遠方」との交渉事がまとまる年でもあります。結婚適齢期であれば「縁談」も整います。万事、諸事順調に整う今年は、「人間関係が拡大し、かつ充実」して行きますので、その結果、交際費の出費が多くなるようです。遊興費の「散財」も心配されますので、収支の在り方には注意をして行きましょう。

今年は最高の「盛運」の年です。しかし、これまで善行を積まず自分の利益だけを追求し、自己中心の行いであった人は、今年の盛運の気を十分に得ることはできないようです。盛運の気は、人を「生かそう」という力の現われで、その盛運の気を受ける人自身が、そもそも「自分のみならず、『他者も生かそう』という心が無い」のであれば、そうした「人々を生かそうとする『盛運の気』」の波に乗り切ることはできません。ですから今からでも遅くはありません、自己中心の心を少しでも改め、「人のために尽くす」「慈悲の行ない」をわずかでも実践していこうと決意するならば、その人は「盛運の気」に乗じて行くことができます。

また「遅延・不成立・詐欺・詐称・ごまかし・もめごと」の事象に遭遇することがあります。このような事態に遭遇したならば、これまでの行いを謙虚に「反省・懺悔」し、「真心を尽くし」、「誠実に臨んで」、周囲への「感謝」に徹すれば、遭遇した難事を無事乗り切ることができます。周囲との「和合」を大切にする姿勢を貫けば、盛運の気をさらに伸ばすことができます。

今年、体調を崩すと「長期化」する恐れがあるので、盛運期ではあっても健康管理には注意を要します。不調であれば早めの手当てをすることが大切です。

今年を植物に譬えると植物が繁茂し、満開直前の九分咲きの状態です。盛んなる成長期であるために、運氣上昇の今年は、「謙虚」になって精一杯「努力」という姿勢が大切だと言えます。「猛進・独断・多欲」は慎むこと。このことを守らずにいと、折角の好機を正しく生かせません。また「交通事故」には注意を要する年。

**【大切な信行】手どり・導き・法座・説法・布施行・財施・化他行・社会貢献・家庭実践**

**【健康】感染症。風邪・胃腸・肝臓・血管・神経系・食道・大腿部・腋・手・毛髪**

※ 以上の考察は、気学上想定できる今年一年間の傾向・トレンドであり、あくまでも参考の一つであって「運命論」「決定論」ではありません。表現上、強調の意味を込めて「～です」「～となります」など断定的表現をしていますが、すべては「推測・想定」の域を超えるものではありません。したがって「参考意見の一つにする」程度でお目通しを頂ければ幸いです。

しかし、この拙い考察が、お一人おひとりの「菩薩行実践」のための判断材料・参考としてお役に立つならば、幸甚これに過ぎるものではありません。

皆さまの益々のご清祥、そしてさらなるご精進を心から念じつつ。

編者 九拝